

BROKISGLASS



A NEW LIFE FOR GLASS

吹きガラス工程で生まれる端材を、サステナブル素材「BROKISGLASS」へ

手吹きガラスの製造工程では、週に約 5 トンものガラス片が生まれます。

BROKIS は、長年にわたり、廃棄されるはずだったこれらの素材を、どうすれば再び活かすことができるのかを考えてきました。

プラハを含むチェコ西部、ボヘミア地方。高級ガラスの産地として知られるこの地に根を張る BROKIS は、地域に受け継がれてきた良質な原料と伝統的な技術を大切にしています。だからこそ、そこで生まれるガラスを無駄にしたくない。その思いから、ガラスを新たな素材として再生するための特別な設備を導入し、独自のリサイクル開発をスタートしました。こうして誕生したのが「BROKISGLASS」です。

製造工程で生まれたガラス片は、色ごとに丁寧に選別・保管され、再びものづくりのための素材として活かされます。

一度は役目を終えたガラスを、新たな価値を持つ素材へと再生する。

週に約 5 トンものガラス片を廃棄物として終わらせるのではなく、もう一度、ものづくりの現場へ。

そして、建築、インテリア、プロダクトデザインなど、さまざまな分野で新たな創造性を生み出す素材へと生まれ変わらせています。



環境認証への取り組み

BROKISGLASS において LCA（ライフサイクルアセスメント）の認証プロセスを完了し、その評価に基づく EPD（環境製品宣言）を取得しています。2025 年には国際的に認められた EPD が発行され、製品のライフサイクル全体における環境負荷を客観的に可視化。廃ガラスの再利用と合わせ、持続可能なものづくりを推進しています。



吹きガラスの端材から
BROKISGLASS になるまで

THE STORY OF SHARDS



吹きガラスの端材から、美しいBROKISGLASSへ。

THE STORY OF SHARDS

BLOWN GLASS 吹きガラス



SHARDS 破片（シャード）



RAW MATERIAL 再生原料



SORTING 選別



伝統的な手吹きガラスの製造工程は、完全なゼロ・ウェイスト（廃棄ゼロ）ではありません。一度溶かしたガラスは、再び吹きガラス用として使用するには品質が劣化してしまいます。

通常、吹き上げたガラス製品を竿から切り離す際、全体のおよそ 1/3 のガラスが廃棄物として捨てられてしまいます。

このガラス片は廃棄されるのではなく、丁寧に保管・管理され、再び価値ある原材料として新たな役割を担います。

回収されたカレット（ガラス片）は、色ごとに選別され保管されます。BROKISGLASS の新しい命として生まれ変わる準備が整います。

MELTING 溶融工程



PANELS ガラスパネルの形成



WATER JET CUT ウォータージェット加工



FINAL PRODUCTS 製品へ



まず、選別されたカレットを粉碎し、断片を型に並べます。その後、フュージング炉（融着炉）で再加熱・溶融し、パネルを成形します。

この溶融工程により、断片のサイズや組み合わせによって構造や色彩が異なる唯一無二のガラスパネルが生まれます。仕上がりデザインは自由にカスタマイズが可能です。

完成したパネルは、ウォータージェット技術によって高精度に切断されます。さらに、サンドブラスト、フロスト加工、縁の研磨など、用途に応じた仕上げも施せます。

こうして生まれるのが、BROKISGLASS です。カレット（ガラスの端材）が迎える再生の循環はここで完結し、ほぼゼロ・ウェイストの製造サイクルが実現します。